

# 研修医しぐさ



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館

電話(073)424-5101 代 FAX(073)436-0530

E-mail: ishikai@wakayama.med.or.jp

令和7年5月発行

## 医師会って何？ (第4弾)

と医師会・学校医の学校保健・健康教育に果たすべき役割は大変重いものではないでしょうか。

## 学校保健 医師は学校から何を求められているか

和歌山県医師会

副会長 木下 智弘



和歌山県医師会副会長である木下智弘先生に、学校医活動について御寄稿頂きました。県内にある公立小学校、中学校、高校それぞれに学校医が配属されています。きっと皆様もこの活動に携わることもあるでしょう。学校医は医師会から派遣されています。学校医の為の研修も定期的に行われています。

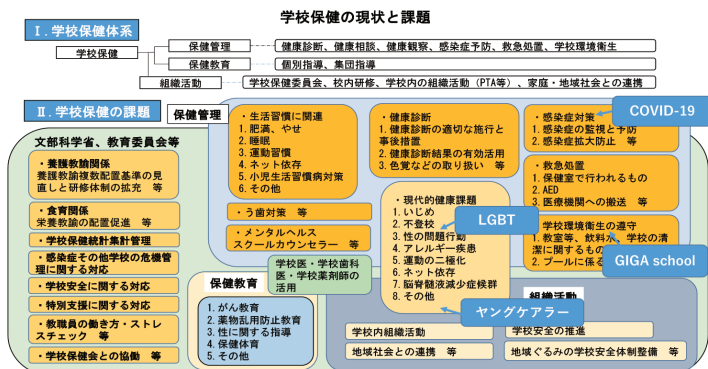
医師会では、地域に根ざした医師の活動として、診療以外に様々な活動を連携しながら地域住民を守るため、地域保健・公衆衛生活動により、一生涯にわたり支える重要な役割を担っております。多くの研修医の皆様は卒業後まずは臨床医学を研鑽されると思いますが、このような公衆衛生学の視点を持ち、地域医療や予防医療にも積極的に関与して欲しいと願っております。

予防接種や各年齢による健診(検診)事業等の地域保健活動は、身近にあるためご存知の方も多いとは思いますが、「学校保健」に関しては未だ馴染みが薄いかもしれません。

まずは学校保健に対し、医師は学校から何を求められているか、医師会として何ができるかを考えてみましょう。

学校保健とは「学校において児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図ること」であり、学校保健安全法で規定されています。その活動は様々であり、私たち医療職(学校医等)が求められているのは主に健康管理、保健指導、保健教育に参画することです。

図(学校保健の現状と課題)にみられるように、現在の学校保健を取り巻く課題は非常に多岐に亘って複雑化し、また最近ではCOVID-19(新興感染症)、LGBT、GIGA school、ヤングケアラー等、新たな課題も表面化しております。時代の状況に合わせて「学校保健」では養護教諭をはじめとする学校教員、学校医・学校歯科医・学校薬剤師など多職種とともに家庭・地域が密に連携して、課題を洗い出し解決策を共に考えていくことが必要となってきます。



このためにも学校において学校医は健康管理(健診)だけでなく、専門的な立場から実践的な生涯にわたる健康教育、感染症対策を推進していく必要があります。

人生100年時代において、生涯を通じ健やかに過ごすための予防活動も医療の大きな役割となります。残念ながら、現状のがん検診等の受診率の低迷等、現在の国民の健康リテラシーは決して高いとは言えず、ひとたび身についた不健康な習慣や喫煙・飲酒習慣などを修正していくことは容易ではありません。そのため健康的な生活習慣の獲得と実践の礎は、子供の頃に身につけていくこと肝要で、子供の健康支援と健康リテラシー向上をさらに推進するために、学校医の積極的役割が望まれます。このような視点から考える

と医師会・学校医の学校保健・健康教育に果たすべき役割は大変重いものではないでしょうか。

このように学校医は、学習指導要領と今般の教育方針に沿った健康教育、健康相談を専門的な知見から助言する立場にあります。学校医は、「チーム学校」の一員、学校の「かかりつけ医」としての認識を持って学校保健活動に協働していく心構えが必要となってきます。

また、「チーム学校」として、学校医以外にも外部講師による参加・協力が望まれています。健康教育の一環として、特に専門的な知識が必要な喫煙防止、薬物・アルコール予防、がん教育等には外部講師の活用も考えられています。

和歌山県医師会としても、学校医としての課題を明確に示し、学校医活動への支援と学校保健・健康教育の今後の在り方について提言するとともに、県教育委員会・市町教育委員会と連携を深め、学校保健委員会等の活性化等、各学校とも連携を強め、「チーム学校」の一員として推進していきたいと考えております。

研修医の皆様は、学校医としてではなくても学校保健に興味を持ってご自身で何かできないかを考える機会になれば幸いです。



## 焦らず自分の医師道を

うつのみやレディースクリニック

院長 宇都宮智子

私は、和歌山市内で不妊治療(生殖医療)のクリニックを開業しています。和歌山医大の4年生の講義や産婦人科専攻医研修の受け入れもしているので、私をご存じの先生方もいらっしゃると思います。

研修医のまどか先生と同僚の先生たちのドラマを高校生の次女と毎週見て、ときどき私の研修医時代に担当した患者さんのことや過酷な(?)日々を思い出して涙していました。私はこんなに患者さんと真摯に向き合っていたらどうかと思うながら、先生方も仕事も勉強もプライベートもすることがたくさんありつつ、将来の進路について模索中で毎日を生きていくのが必死という方も多いと思います。

さて、私が行っている体外受精(IVF-ET)ですが、1978年にイギリスでこの治療によりはじめて児が誕生しました。それから5年後に日本初の体外受精児が生まれています。日本では「試験管ベビー」という奇妙な翻訳をされてこのニュースが紹介されていました。その当時私は小学生で、「えーっ!試験管で赤ちゃんができるの?」とかなりの衝撃を受けたのを覚えてます。

それから浪人生活の後、なんとか和歌山医大に入学。日本卵子学の第一人者である平尾幸久教授の生物学講義を受けて、上記の記憶が鮮明となり、私のやりたいことはこれだと決めて現在に至ります。

生殖医療するためには、産婦人科医にならないといけません。自分と同じ世代の方々が分娩してお母さんになったり、子宮頸がんや卵巣がんなどで亡くなっていくのを間近に見て、自分も家族を持とうと思いました。

幸い育メンの大学の先生と結婚し、大学の保育園に長女を預けることができたため、夫婦とも実家のサポートが受けられない状況でありましたが、上司・同僚の先生方の協力のもと、国内留学で生殖医療の修行を開始。大学院生をしながら和歌山医大で体外受精施設の立ち上げと診療をしました。その間に産婦人科専門医と細胞診専門医、生殖医療専門医を取得しました。

より充実した施設を作ろうと開業を目指してからは、信用もお金もなく苦労しましたが挫折せず、先輩のクリニックと大阪の不妊クリニックでお世話になりながら2年ほどで開業しました。開業してからも、夫の協力、保育・学童サービス、家事サポート、ママ友とクリニックスタッフの支援を得て、一人の女性としても産婦人科医・生殖医療医としてもキャリアと積むことができました。

研修医時代から医師会に入会していたので、開業してからも人脈を駆使して産婦人科だけでなく他科の先生方のアドバイスを得て、ステップアップしたいときも立ち止まったときも乗り越えてきました。





開業して15年になり、我々の施設の治療で生まれてきたお子さんは3000人を超えました。彼らが未来の和歌山県のため、日本のために活躍してくれることを楽しみにしています。また、今年の3月に大阪市で第13回関西生殖医学集談会・第57回関西アンドロロジーカンファレンス合同研究会を主催しました。関西の生殖医療に携わる方々に多数参加いただき盛会でした。和歌山県の生殖医療をアピールできたと自負しております。

私は、自分の行きたい方向に周りの協力を得てがむしゃらに進んできたいし、これからもそうしていくと思います。先生方はとりあえずお医者さんになった方も初期研修は修了しないとうにもなりません、これからの長い医師道をどのように行くのかご自身の納得のいく素晴らしい選択をしていただくことを祈念しております。



## 令和7年度

### 新規採用研修医に対する講演

4月3日13時から、和歌山県立医科大学次世代医療研究センターにて、新規研修医68名に、医師会の紹介、医師会入会のメリット、JMAT、認定産業医、スポーツ認定医、母体保護法指定医、医師資格証について説明がありました。特に県医師会入会費用の5年間免除と医師賠償責任保険についても説明がありました。今年から入会は「MAMIS」というアプリからスマホで手続きが出来るようになりました。まだの方は、このQRコードからどうぞ。



## 編集後記

今年の桜は、一段と美しかったなあと思っていらっしゃる方も、多いのではないのでしょうか。4月15日、和歌山県知事 岸本周平氏の突然の訃報が入ってまいりました。桜が急に散ってしまったように感じられます。敗血症ショックだったとのことで、発症すると死亡率は30%と高いと、報じられました。症状があっても、私用なので公用車は使えないと、医療機関に行かずに公舎に帰ったと、報じられました。帰り際に行けなかったのかと残念であり、まじめなお人柄に、涙を誘います。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

(文責：和歌山県医師会 濱田 寛子)

## 令和7年度

### 子育てフォーラム in 和歌山の開催



令和7年3月1日、ホテルグランヴィアにて、子育て支援とゼロ歳児からの虐待防止を目指して、公益社団法人日本医師会、公益社団法人SBIこども希望財団、一般社団法人和歌山県医師会が主催して、開催されました。児童虐待は依然として増加傾向が続き、大きな社会問題となっています。特に死亡児の低年齢化、中でも0歳児に集中していることが明らかになり、虐待によるこどもの死亡を予防するためには、従来の早期発見・早期対応に加え、その発生を予防する取り組みが必要です。そのためには、妊娠・出産・子育てに対する具体的な対応を含め、社会全体で取り組む必要があります。当日は、一般市民等200名近くが集まり、児童虐待防止に向けた啓発活動、情報提供を行いました。一般市民への教育講座開催も医師会の活動です。

#### 令和7年度『地域における女性医師支援のための会』 和歌山県医師会 女性医師支援懇談会

#### ～医師が時代と環境に適応する術～

日時：令和7年6月21日（土）16:00～17:30

場所：和歌山県民文化会館 6階 特別会議室B

対象：女性医師（特に産休、育休中の医師） 男性医師も歓迎です  
妊活・婚約中の女性医師、女子学生と御父兄も歓迎です

一緒に勉強しましょう！

16:00～ 開会挨拶 和歌山県医師会 理事 森 壽美  
16:05～ 【座長】 和歌山市医師会 理事 進藤 直子

#### 講演

#### 子育て終盤にて女医師20年を振り返る

講師 たいようファミリークリニック  
院長 古宮 圭



16:45～ 質疑応答 交流茶話会  
17:20～ 令和6年度 和歌山県医師会女性医師支援の活動報告  
令和7年度 活動計画説明 和歌山県医師会 理事 濱田 寛子  
17:30～ 閉会挨拶 和歌山市医師会 理事 秋岡 嘉美

#### 古宮 圭（こみや けい）先生 御略歴

1979年 福岡県飯塚市生まれ  
1998年 東明館高等学校卒業（佐賀県）  
2005年 順天堂大学医学部卒業  
2007年～2011年 東京都立駒込病院と墨東病院にて臨床研修と卒後研修（小児科）  
2011年～2012年 駿河台日大病院小児科にて小児糖尿病を学ぶ  
2012年 二人目の子どもを出産後にすぐに夫の仕事のため夫婦で和歌山に赤へ  
夫の仕事である国際教壇で海外出張が多くなり、両親を和歌山に呼び寄せる 三人目出産  
2017年 たいようこどもクリニックを継承して開業  
2019年 海南市教育委員会就学指導委員  
2020年 医療法人たいようファミリークリニックに名称変更 たいよう教室開室  
2021年 高野山診療所小児科医として月に1回勤務  
2023年 一般社団法人 てらす / 不登校カフェ開業  
仕事、カフェ、こども食堂と日々の勉強  
こども3人の子育て、息子の硬式野球でなくてはならない毎日の生活。  
どうぞよろしくお願いいたします。

主催：日本医師会女性医師支援センター 共催：和歌山県医師会

\*出席申込・託児希望は裏面をご利用ください。